

風の彩

二管の綾

かぜのいろどり
にかんのあや

越後・直江津

真行寺公演

浄土真宗本願寺派

11/26



真竹でつくられた「まこぶえ」と篠竹でつくられた「しのぶえ」をそれぞれ独自の独奏と二重奏で、懐かしく新しい音楽を紡ぎ出します。
「謡曲・竹の雪」の舞台となった真行寺本堂で和蠟燭の灯りの下、宵闇に染み入る笛の音をご堪能ください。



篠笛 (しのぶえ)
森美和子

平成二十九年十一月二十六日(日)
上越市直江津北口・真行寺・本堂
開場・午後三時半
開演・午後四時(公演は一時間半ほどです)
入場料 二千円(限定八十名程度)
全席自由ですが、前売り販売のみとさせていただきます。
当日券はございません。お早めにお求めください。
寒いのであたたかい格好でお越しください。



真笛 (まこぶえ)
山口幹文 (鼓童)

当日は多彩な演目の他に、真行寺に伝わる「謡曲・竹の雪」にちなんで、ここだけのオリジナル曲「月若(つきわか)」が披露されます。ご期待ください。

チケット販売・お問い合わせ
協同組合ウッドワーク内・加藤まで
電話・〇二五―五三九―五四二二
受付時間・月曜〜金曜 9時〜15時
住所・上越市五智2-102-1
地図は裏面を御覧ください。また駐車場は
ありませんので、公共交通を利用頂くか、
近くの有料駐車場をご利用ください。
また「竹の雪」あらすじは裏面に記載。

謡曲・竹の雪と真行寺

あらすじ

越後国の住人、直井(直江)左衛門は、妻と離別して近くの長松(現在の長浜)に住ませ、二人の子の、姉を前母の方に、弟の月若(つきわか)を自分の方に置きました。新たに妻を迎えた直井は、宿願のために参籠する間、月若のことを後妻にたのんで出掛けました。その留守中、継母に虐げられた月若は家を出ようと思い、暇乞いに実母を訪ねます。しかしすぐに継母から使いが来て、仕方なく月若は家に帰ります。継母は実母に告げ口に行ったのだらうと腹を立て、月若の小袖を剥ぎ取り、薄着の月若に降り積った竹の雪を払わせます。月若は厳しい寒さの中で、家に入ることもかなわず、ついに凍死してしまいます。その知らせを受けた実母と姉が涙ながらに雪の中から月若を探し出し、悲しみにくれていると、直井が帰宅して事の次第を知り、後妻の無情を共に嘆きます。すると「竹ゆえ消ゆるみどり子を、又二度返すなり」と竹林の七賢の声がして、不思議にも月若は生き返ります。親子は喜びあい、この家を改めて仏法流布の寺にしました。(宝生の能より)

この直井屋敷跡が現在の真行寺であると伝わっています。真行寺境内には「竹の雪」の舞台を記念して石碑が建立されています。また境内の「長松」は、樹齢二百年と言われ、「竹の雪」にちなんで応永年間に植えられたものです。

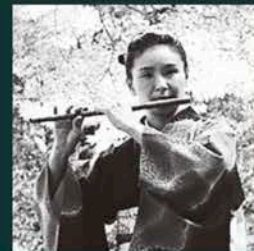
山口 幹文(真笛) profile

鼓童名誉団員。茨城県出身。1980年「佐渡の國鬼太鼓座」に入座。笛を独学にて習得し、太鼓集団の中で確固たる笛の表現を確立。笛の他、各種旋律楽器の演奏や作曲、演出を担当。ハリウッド映画の音楽監督、演劇への楽曲提供等も行。2009年、佐渡の真竹で作られた真笛の豊かな響きで、国内外の民謡からオリジナル曲まで幅広い演奏を収録したソロアルバム「一管風月」を発表。現在は鼓童の舞台活動に加え、アルバムと同タイトルの「一管風月」公演を精力的に行い、篠笛講座の講師も務める。



森 美和子(篠笛) profile

1995年より京都を拠点に演奏活動を始める。ソロ公演の他、音楽家を始め、舞手、衣装デザイナー、美術家などと共に公演を行う。伝統芸能、郷土芸能から学んで影響を受ける一方で、2003年より身体教育の稽古会において、日本古来の身体感を学び経験することから、笛の奏法を研究している。能楽の笛を一噌幸弘氏に、謡を観世流・梅田邦久氏に師事。奄美民謡を故・上村藤枝氏に師事。民俗芸能「京都鬼剣舞」笛方。京都、大阪で篠笛教室を主催。



直江津駅・北口



直江津駅・北口より徒歩5分

SHINGYOUJI
TEMPLE
CONCERT

2017
11/26
PM4:00~